

2  
3 己に打ち克ち、行動する J A Y C E E

4 ～希望溢れる網走の創造～

5  
6 **【はじめに】第14期LOM中期ビジョン策定の意義**

7 1952年、日本で28番目、道内では4番目のLOMとして、網走青年会議所は設立  
8 された。創立以来、「明るい豊かな社会」の実現を普遍的な理念として掲げ、運動を展開し  
9 続けてきた。「青年会議所しかない」時代から、「青年会議所もある」時代と揶揄される昨  
10 今、そもそも青年会議所にはどういった独自性や可能性があるのだろうか。これまでも、  
11 地域のシンクタンクとして様々な社会問題を調査・研究しながら、解決策を見出してきた。  
12 そして、解決策を見出すだけでなく、問題解決のため、実際に運動を展開してきたのが  
13 青年会議所である。シンクタンクとしての機能と、問題解決へ向け運動を展開する行動集  
14 団としての機能という二つの側面を併せ持つ集団は、青年会議所以外に存在しない。常に  
15 時代に即し、地域に根差した運動を展開することができるのは青年会議所だけであり、青  
16 年会議所だからこそ、まちを変え、ひとを変えることができるのである。

17 現在、地方における最大の問題は、他の先進国が直面したことのない人口減少という問  
18 題である。人口減少は地域経済を縮小させ、また地域経済の縮小が人口減少を加速させる  
19 という負のスパイラルを引き起こす。それは、地方の財政、消費、雇用、産業、教育等、  
20 あらゆる分野に波及していく。全ての施策を総動員して取り組まねばならない課題である  
21 からこそ、市は総合戦略を策定し、数値目標の達成に向けて施策を講じている。時代に即  
22 し、地域に根差した運動を展開する青年会議所として、目下の人口減少問題は、不都合な  
23 真実ながらも、対峙しなければならない問題である。

24 上記を踏まえ、現在の問題を網走青年会議所の視点で分析し、2017年～2021年  
25 の5年間における私たちの運動の方向性を共有することで、単年度制という不連続を超越  
26 し、連続性のある運動を展開することができる。そのために、一般社団法人網走青年会議  
27 所第14期LOM中期ビジョンをここに策定する。

28  
29 **1. 希望喪失社会**

30 少子高齢化や都市部への人口流出に伴い、人口減少と地域経済の縮小が加速する中で、

31 人口減少の克服と地方の成長力を確保するためには、どういった意識変革が必要なのか。  
32 「この国にはなんでもある。しかし、希望だけがない」  
33 出生率の低下、非婚化、晩婚化、流出人口の増加、国家主権や政治への無関心は、すべ  
34 からく、その事象に対して、希望を見いだせていないことに起因するのではないだろうか。  
35 個人は当然のことながら、自らの属する家族、会社、地域や国家、また政治に対して希望  
36 が見いだせていないならば、自分自身のために、そして公のために、前向きな行動が生ま  
37 れるはずはない。  
38 「自分が行動しても何も変わらない」  
39 希望の喪失が、あらゆる問題の根底に横たわっている。

40

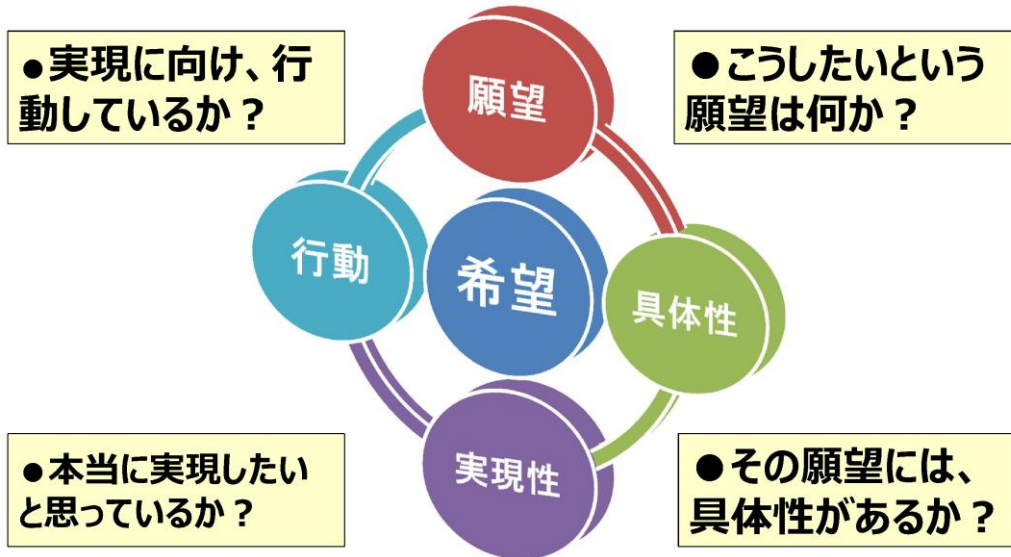
## 41 2. 希望とは何か？

42 戦後の日本において、進歩、発展、成長という言葉が信じられていた時代があった。個  
43 人が何を欲し、何を目的として生き、社会がどこに向かっているのか、はっきりと先行き  
44 が見えているかに思えるそのような時代には、社会的言説もまた希望はいつでも存在する  
45 ことを前提としていた。しかし、今やそのような前提自体が崩れつつある。若者が、社会  
46 を映し出す鏡だとすれば、若者の無気力、ひきこもり、ニート等はそのような状況の一つ  
47 の表れだと言える。個人にとって、希望があることが当たり前の時代は過ぎ去り、今や希  
48 望を持つこと自体が困難な時代となっている。

49 そもそも、希望とは一体何なのか。ここで希望とは、「具体的な何かを行動によって実現  
50 しようとする願望」と定義する。従来では、希望という概念は個人の心理や感情の一つと  
51 して捉えられることが多く、希望は個人の問題でしかなかった。しかし、希望は誰しもが  
52 持つことができるということが与件ではなくなっている現代において、個人の希望はその  
53 置かれた社会環境によって影響される。そして、個人の希望が、ひいては社会全体の動向  
54 にも影響を与える可能性をも持ち合わせている。つまり、希望とは個人と社会全体の両方  
55 に影響し、個人が希望を持ち行動することが、個人の自己実現と社会の変革につながって  
56 いく。

57

# 希望の構造



希望は4本の柱によって、成り立つ

## 「希望」の定義

- ・希望とは、具体的な何かを「行動」によって実現しようとする願望  
Hope is a wish for something  
to come true **by action.**
- ・個人の希望を地域や社会で「共有」すると、社会の希望につながる  
Social hope is a wish for something  
to come true by action **with others.**  
(each others.)

東京大学社会科学研究所「希望学」より

58 **3. 問題解決への鍵 「ひと、まちに希望溢れる網走」**

59 定量的な分析では、収入、仕事、教育、余命、健康などによる選択可能性の程度が、希  
60 望を持つ、持たないことに影響することが明らかとなっている。故に、網走市を鑑みると  
61 人口減少、高齢化、経済の停滞、都市と地方の教育格差や医療格差が広がることは、希望  
62 の喪失に直結する。希望は、人間関係にも影響し、共同体のつながりの希薄化や孤独化現  
63 象の深まりも、希望を持てないことへと拍車をかけうる。つまり、このままでは、個人は  
64 希望をますます持ちにくい状況が進み、そのことが負のスパイラルをより加速させてしま  
65 う。

66 我々は、現在の希望を持ちにくい社会環境の中で、個人の自己実現や充足感の原動力と  
67 なる希望の明かりを灯し、それを社会変革へとつなげていく正のスパイラルへと転換を図  
68 らなければならない。すなわち、第14期LOM中期ビジョンで描く2021年の到達点  
69 は、「希望溢れる網走の創造」であり、そのために網走青年会議所は運動を展開する。

70

71 **4. 「希望溢れる網走の創造」に向けた具体的な指針**

72 **(1) まちの希望を育む**

73 平成27年6月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」の中で、  
74 人口減少問題の克服、地方の成長力の確保を目指し、地方創生の深化に向けた政策として、  
75 以下の4つの項目がある。

76 ①地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

77 ②地方への新しいひとの流れをつくる

78 ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

79 ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

80 地方の稼ぐ力、官民協働や地域間連携、民間の創意工夫がまさに必要とされている。地  
81 方創生を推進する上で、鍵となるのが地域の希望である。網走の希望とは一体何なのか、  
82 そしてそれは市民に共有されているだろうか。まちのためにどれくらいの市民が行動して  
83 いるだろうか。まちに対して市民が希望を抱き、行動する市民が増えるならば、人口減少、  
84 少子高齢化をはじめ、様々な問題を解決する鍵となる。私たちは、まちの希望を育み、共  
85 有する運動を展開する。

86 ①網走の歴史、伝統、文化を踏まえ、まちの新たな希望を発掘する運動

87 ②ローカルアイデンティティの再構築を通じて、まちの希望を拡大、共有する運動

88 ③現在の社会環境を変える運動を通して、まちへの希望を育む運動

89

## 90 (2) ひとの希望を育む

### 91 【対内】

92 J A Y C E E 一人ひとりが、網走の希望となるよう研鑽を積み、資質の向上を図ること  
93 が求められる。

94 ①確固たる国家観・歴史認識と確かな主権者意識の醸成

95 ②地域の課題発掘と解決策を導き出すことのできる人材の育成

96 ③規律や礼節を備え、行動によって地域から信頼される人材の育成

97

### 98 【対外】

99 若者からお年寄りまで、全ての世代に希望の明かりを灯すことができれば、前向きな行  
100 動が生まれる。私たちは、地域のリーダーとして、市民の希望を育み、アクティブ・シチ  
101 ズン（行動する市民）を増やすことが求められる。

102 ①青少年を含めた市民の希望を育み、行動へとつなげる運動

103 ②青少年を含めた市民に、日本人、網走人としてのアイデンティティを確立する運動

104 ③家庭、学校、地域の更なる連携を通じて、青少年の希望を育む運動

105

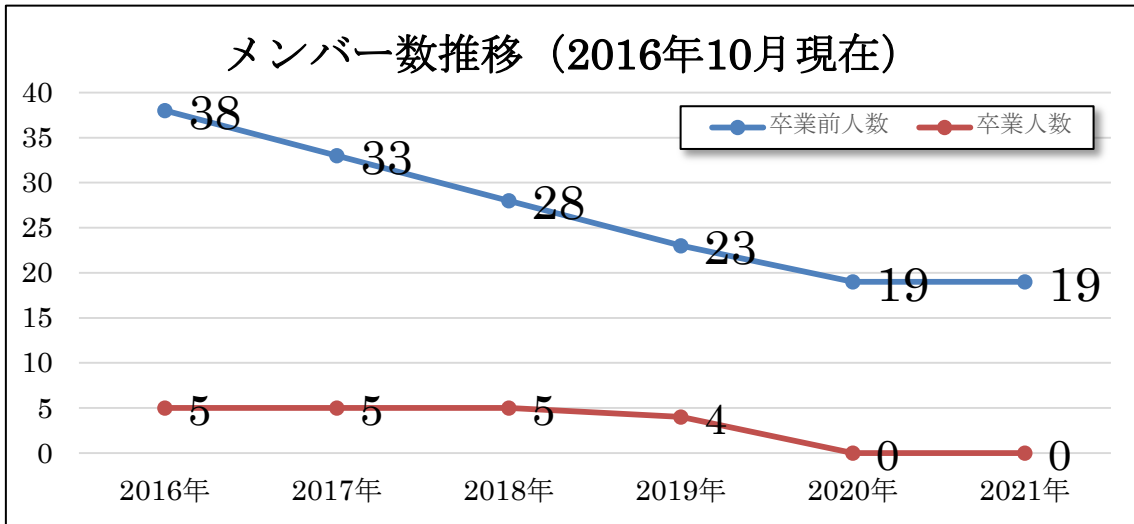
## 106 5. 「希望溢れる網走の創造」に向けた組織の在り方

### 107 (1) 会員拡大について

108 人口減少社会を迎える中、会員拡大は最重要課題であるといっても過言ではない。会員  
109 拡大こそが、市民意識変化運動の最たるものであり、最大の J C 運動である。私たちの理  
110 念を共有し、行動する市民が増加することで生じる効果は、まち、ひと、そして組織にと  
111 って計り知れないものがある。青年会議所への入会は、間違いなく入会者の人生を変える。  
112 入会者の存在が組織に新たな活力をもたらし、まちを変えていくのである。

113 2015年第64回北海道地区大会網走大会の主管、また主管獲得に向けたそれ以前の  
114 様々な取り組みは、網走青年会議所にとって代えがたい成長と発展の場となった。会員数  
115 の減少が全国的に危惧されている中で、次なる北海道地区大会網走大会主管獲得を念頭に、  
116 また更なる運動展開に向けて、共に活動・運動する同志を増やさねばならない。会員拡大  
117 には、5年後の数値目標が不可欠である。2007年～2016年での10年間における

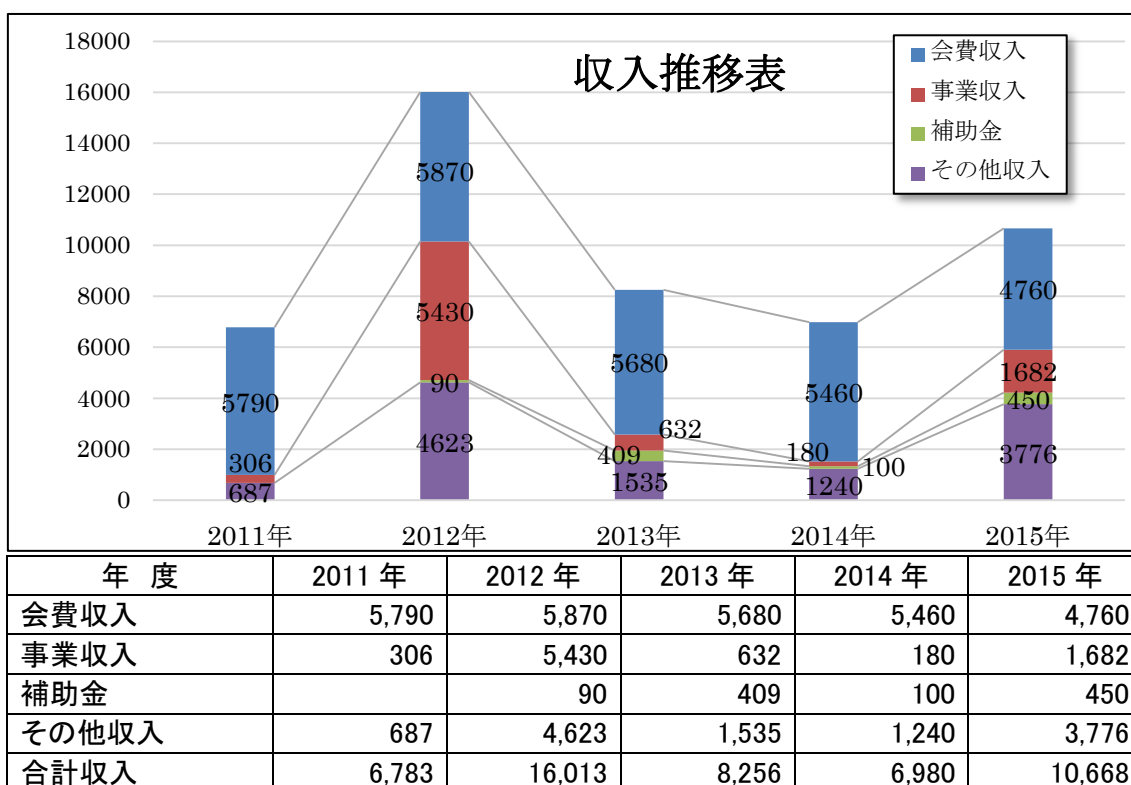
118 最大会員数が、2012年の50名であったことを鑑み、今後5年間の目標会員数を50  
 119 名とし、継続的な会員拡大を実施する。50名という数字は、必達目標である。達成に向  
 120 けて、地域から信頼される活動・運動を通じて、網走青年会議所ブランドの発信と伝播が  
 121 不可欠である。全会員がJCの伝達者となる覚悟をもって、不断の会員拡大を実践してい  
 122 く。



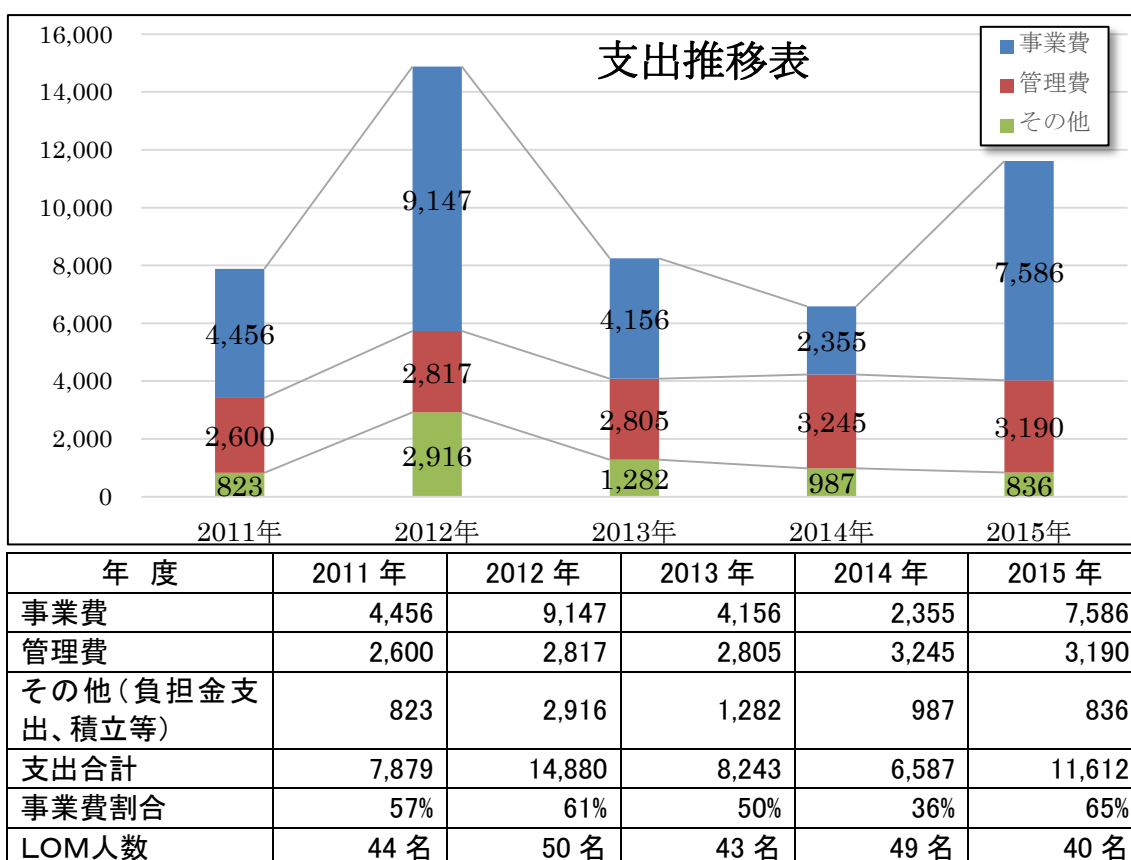
年度	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
卒業前人数	38	33	28	23	19	19
卒業人数	5	5	5	4	0	0

123 (2) 財政状況について

124 収支計算書から、事業活動収入は主に会員からの年会費であり、会員数の増加が財政状  
 125 況にプラスとなるが、逆に会員の減少は収入の減少に直結するので、財政状況からも会員  
 126 拡大の必要性が大きい。資産推移から、年々資産合計が減少しているのも事実である。



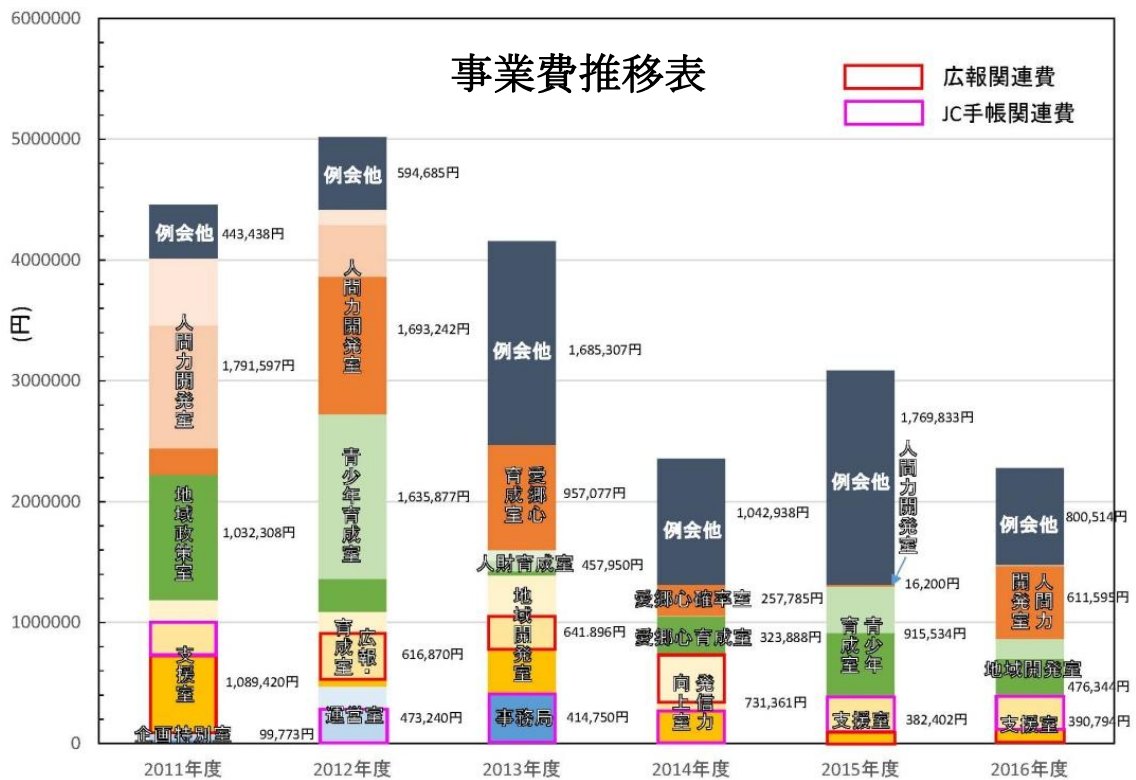
単位：千円



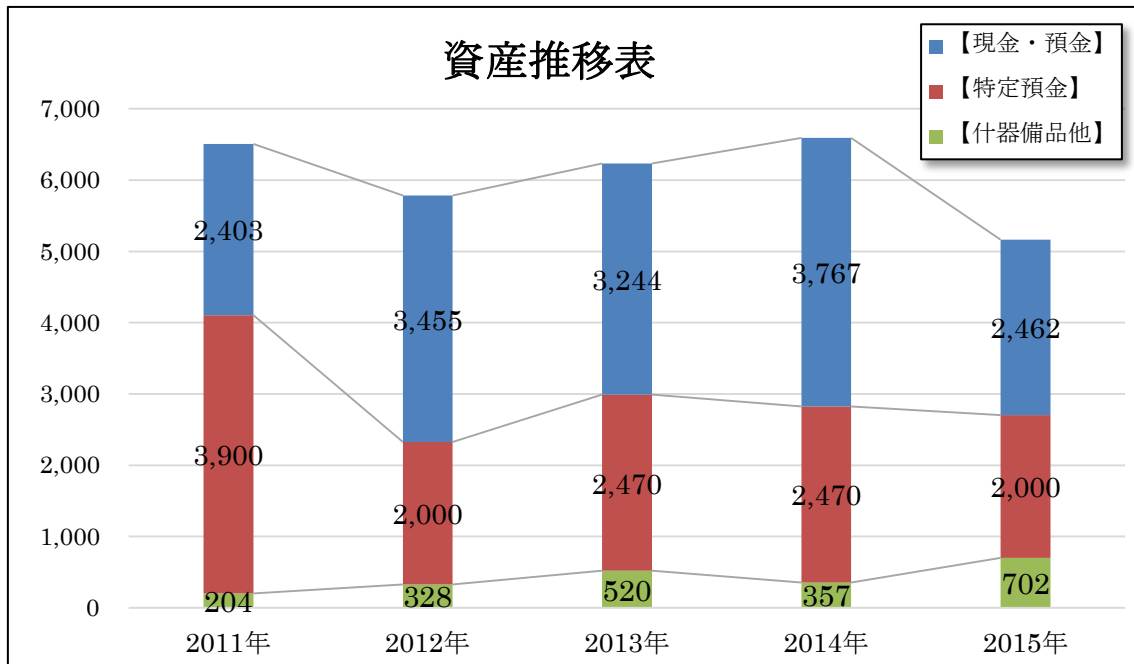
単位：千円

127 支出推移表において、管理費の平均値は293万円である。さらに負担金支出は、例年8  
 128 3万円であり、合計して年間376万円が、管理費・負担金支出として支出される。20  
 129 17年度の会員数33名×12万円では、会費収入396万円であり、会費収入だけで計  
 130 算すると、事業費には20万しか充当できない計算になる。

131 見直しを図るべき部分は、事業費と管理費支出である。2011年から、事業費が多い  
 132 年は、講師関係費の支出が多いことがうかがえる。事業実施前の段階で、費用対効果を十  
 133 二分に精査すべきである。また成果をしっかりと検証することが求められる。また、管  
 134 理費支出では、徹底した無駄の削減に取り組むべきである。また、会計においては、費用  
 135 対効果をはじめ、予算、決算等、透明性を担保し、適正な運営がなされることも必要であ  
 136 る。







年度	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
【現金・預金】	2,403	3,455	3,244	3,767	2,462
【特定預金】	3,900	2,000	2,470	2,470	2,000
【什器備品他】	204	328	520	357	702
〔資産の部合計〕	6,507	5,783	6,234	6,594	5,164

単位：千円

137 (3) 組織運営について

138 ・プロセス重視と成果重視

139 青年会議所運動は、委員会、理事会、総会等において、討議・協議・審議という諸会議  
 140 のプロセスを経て、事業・例会の実施に至る。事業報告も同様である。諸会議というプロ  
 141 セスは、会議を行うことに目的があるわけではない。合意を形成し、意思決定を行うこと  
 142 と併せて、事業計画の改善や事業実施後の検証を行うために、厳格なプロセスが存在する  
 143 のである。

144 ではなぜ青年会議所は、厳格なプロセスを設け、事業計画の改善や検証を行うのだろうか。  
 145 答えは、私たちの運動に、客観的で明確な成果が求められているからである。地方創  
 146 生では、総合戦略において数値目標やKPI（重要業績評価指標）が設定され、その達成  
 147 に向けて、様々な施策が講じられている。客観的な成果を出すという潮流が、今後より加  
 148 速していくことは間違いない。

149 まずは、組織内において、客観的で明確な成果を打ち出すという意識の共有を図ること

150 が必要である。そして、成果を出すために、上程スケジュール等最適なプロセスの在り方  
151 を模索し、計画・実行・検証・改善というPDCAサイクルとして、諸会議のプロセスを  
152 最大限機能させることが必要とされる。

153 また、明確な成果を出すためには、計画段階において、経験・勘・思い込みに頼らない、  
154 客観的な調査・研究が重要である。RESASをはじめビッグデータ等様々な媒体を活用  
155 した事業構築が求められている。

156

#### 157 ・組織運営の更なる強化

158 事業計画や例会案の構築から、諸会議を経て円滑に実施へと至るには、様々な規則が必  
159 要とされる。従来、事業計画や例会案、また予算書における様々な規則が、単年度ごとに  
160 見直されてきた経緯がある。単年度ごとにこれらの規則を変更すると、混乱を招きかねず、  
161 また規則自体が共有されない。具体的に、議案上の信憑書類、予算書等の規則を明確化し、  
162 継続して運用を図ることで、運営の更なる強化を図るべきである。

163 併せて、理事会、総会における議事録や資料配信、上程スケジュール等の規則について  
164 も、会員間で意識共有を図ることが求められる。

165

#### 166 (4) 本会・地区、他団体との連携

167 これまでの網走青年会議所の歴史を振り返ると、日本青年会議所や北海道地区協議会へ  
168 の出向、各事業やファンクションへの参加参画が、LOMの新たな価値観を形成し、活性  
169 化の呼び水となった経過がある。日本青年会議所や北海道地区協議会との連携を、より一  
170 層強化していく必要がある。

171 また、地方創生において産学官金労言との連携、協働の重要性が指摘されている中で、  
172 行政はもちろんのこと、様々な団体とより一層の連携を深めることが必要である。

173

#### 174 【むすびに】 己に打ち克ち、行動するJAYCEE

175 「名こそ惜しけれ」

176 鎌倉時代の武士が育んだ、恥ずかしいことはするな、私利私欲は恥である、という精神  
177 性である。現在まで脈々と受け継がれる、利他、公への奉仕という日本人の心根は、武士  
178 道を土台にし、育まれてきた。今こそ、現在まで我が国に息づく精神性に誇りを抱き、そ  
179 れを強く持ち直そう。自己を律することで、初めて他を大切にすることができるのである。

180 自立した活力ある「個」と先人が築き上げてきた「公」を止揚して調和を図り、さらに  
181 豊かな倫理観に昇華させる、それこそが、私たちの在り方の基本となるものである。

182 全人類の光明たる私たち青年が、激動の時代であるからこそ、JAYCEEとしての自  
183 覚と誇りを持ちながら、己に打ち克ち、常に行動していこう。いつの時代も、人を変え、  
184 まちを変えてきたのは、青年である。青年の英知と勇気と情熱を結集させた運動を展開し、  
185 希望溢れる網走を創造することこそが、私たちの責務である。

186

187 あなた自身の希望は何か？ 家族、会社、地域の希望とは何だろうか？

188 そして、その希望は皆で共有されているだろうか？

189 JAYCEEが希望に満ち溢れ、家族、会社、地域の希望となろう。

190